

令和7年度

# 鳥取県教育の重点

～各教科等の指導のポイント～

## 【重点目標】

自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成



鳥取県教育委員会



## 目次

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| ○はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1～2 |
|-----------------------|-----|

### ○令和6年度各教科等の授業の実施の状況と

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 今後の取組に向けて・・・・・・・・ | 3～7 |
|-------------------|-----|

|                     |   |
|---------------------|---|
| 国語 社会 算数、数学・・・・・・・・ | 3 |
|---------------------|---|

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 理科 生活 外国語活動、外国語（英語）・・・・・ | 4 |
|--------------------------|---|

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 音楽 図画工作、美術 体育、保健体育・・・・・・・・ | 5 |
|----------------------------|---|

|                                             |   |
|---------------------------------------------|---|
| 家庭、技術・家庭（家庭分野）<br>技術・家庭（技術分野） 特別の教科 道徳・・・・・ | 6 |
|---------------------------------------------|---|

|                        |   |
|------------------------|---|
| 総合的な学習の時間 特別活動・・・・・・・・ | 7 |
|------------------------|---|

### ○令和7年度各教科等の指導のポイント・・・・ 8～12

|                     |   |
|---------------------|---|
| 国語 社会 算数、数学・・・・・・・・ | 8 |
|---------------------|---|

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 理科 生活 外国語活動、外国語（英語）・・・・・ | 9 |
|--------------------------|---|

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 音楽 図画工作、美術 体育、保健体育・・・・・・・・ | 10 |
|----------------------------|----|

|                                             |    |
|---------------------------------------------|----|
| 家庭、技術・家庭（家庭分野）<br>技術・家庭（技術分野） 特別の教科 道徳・・・・・ | 11 |
|---------------------------------------------|----|

|                                               |    |
|-----------------------------------------------|----|
| 総合的な学習の時間 特別活動<br>「とっとり『学びの部屋』」等QRコード・・・・・・・・ | 12 |
|-----------------------------------------------|----|

### ○資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 13～15

|                                                     |    |
|-----------------------------------------------------|----|
| ◆鳥取県教育振興基本計画 ～未来を拓く教育プラン～<br>（令和6年度～令和10年度）・・・・・・・・ | 13 |
|-----------------------------------------------------|----|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ◆「ふるさとキャリア教育」を基軸とした人材育成・・ | 14 |
|---------------------------|----|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ◆とっとりの授業改革【10の視点】・・・・・・・・ | 14 |
|---------------------------|----|

|                                             |    |
|---------------------------------------------|----|
| ◆鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する<br>指標【教諭等】・・・・・・・・ | 15 |
|---------------------------------------------|----|

## はじめに

### 鳥取県教育委員会

#### 1 学力向上に係る取組の歩みと重点目標設定の意図

鳥取県では、全国学力・学習状況調査結果の推移、児童生徒質問調査の結果等の分析から明らかとなった課題の解消に向けて、県教育委員会と市町村（学校組合）教育委員会が連携し、学力向上施策を総合的に推進していくため、令和2年度に鳥取県学力向上推進プランを作成し、鳥取県の「教育に関する大綱」及び鳥取県教育振興基本計画を基に、学力向上に向けた中長期的な方向性と具体的な方策を示してきました。その中で、県内の公立小・中・義務教育学校に対して算数・英語訪問を行い、授業改善の方向性を示すことで、一定の成果を上げることができました。また、令和6年度からは中学校数学訪問も行っているところです。

本県の学力向上のさらなる推進に向けて、生きて働く「知識及び技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成に重点を置き、全県で一体感のある取組を進めていくことが大切です。本県の児童生徒に「思考力、判断力、表現力等」を育成していくためには、教師の日々の授業改善とともに、その改革の方向性が揃っていることも重要だと考えます。

これらのことを踏まえ、県教育委員会では、目指す児童生徒の姿を、「日々の授業の中で、学習課題に対して自分なりの考えを持ち、その考えと一緒に学ぶ友達などに、よりよく伝えるために工夫して表現しようとしている姿」と考え、令和6年度に「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」を重点目標に据えた「鳥取県教育の重点 ～各教科等の指導のポイント～」を作成しました。引き続き、本資料の内容を継続的に周知し、全県で徹底していくことが、本県における「思考力、判断力、表現力等」を育成する授業につながっていくものと期待しています。

#### 2 「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」における本県の現状

急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。そのためには、社会生活の中から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、新しい解や納得解を生み出す力が必要です。

文部科学省による中央教育審議会への諮問「初等中等教育における教育課程の基準等のあり方について」（令和6年12月25日）では、「習得した知識や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠に基づいて他者に明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと等に依然として課題が見られ、現行学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばである」としており、「自分の考えを持ち、工夫して表現する」ことは、全国的な課題と捉えられています。

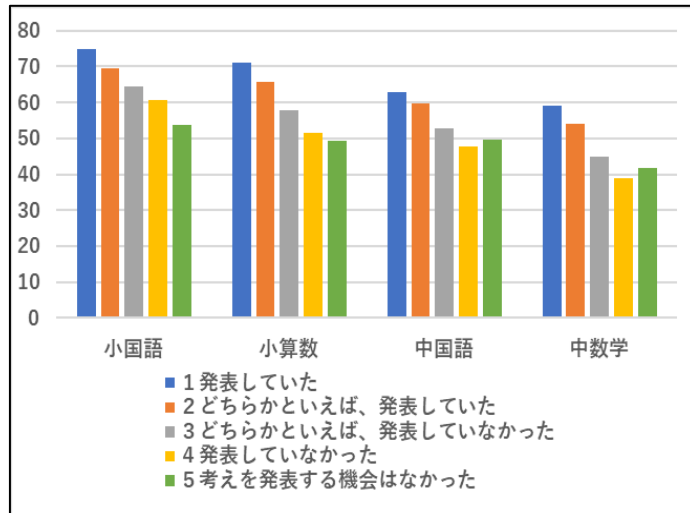
また、近年の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査結果を見ると、「自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」ことに肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は高い状況であることから、自分の考えを持ち、工夫して表現することが、児童生徒の「思考力、判断力、表現力等」の育成に大きく関わっていると言えます。しかし、本県の児童生徒の肯定的回答の割合を全国平均と比較すると大きく下回り、低下傾向にあります。

これらのことから、重点目標「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」に向けて取り組むことは、現行学習指導要領が重要視する「思考力、判断力、表現力等」の育成や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、ひいては、「鳥取県教育振興基本計画」の基本理念「自立して心豊かに 幸せな未来を創造する ふるさととつとりの人づくり」にもつながるものと考えます。

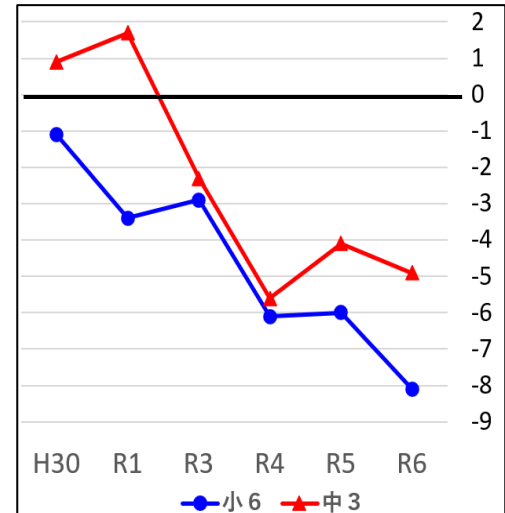
【参考資料】令和6年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果から（※【グラフ2】はH30～R6の推移）

5年生まで（中1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

【グラフ1】児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率  
鳥取県（公立）



【グラフ2】鳥取県（公立）と全国（公立）の  
肯定的回答割合の差の推移



- ・【グラフ1】から、5年生まで（中1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会に工夫して発表した児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。一方、「4 発表していなかった」という児童生徒（小6児童9.6%、中3生徒11.3%）や「5 考えを発表する機会はなかった」と捉えている児童生徒（小6児童1.4%、中3生徒2.2%）の平均正答率は低い。
- ・鳥取県（公立）の児童生徒の肯定的回答の割合自体は、前年度と比べると、小・中ともに増加している（小6児童 +1.7ポイント、中3生徒 +1.8ポイント）が、【グラフ2】から全国（公立）と比べると、近年は大きく下回り、その差がより広がってきている。

### 3 本資料の活用について

本資料では、「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」に係る授業改善について、各教科等の指導のポイントを2点ずつまとめています。活用の場面については、以下のように考えています。

- ・教師が指導の重点事項を理解し、日々の授業改善に向けて活用すること
- ・校内授業研究会等での授業参観の視点とすること
- ・管理職等が日々の授業を見る際の視点とすること
- ・指導主事等が学校訪問して指導助言する視点とすること

県教育委員会としては、PDCAサイクルを踏まえた授業改善を推進するため、年度末には全県の指導主事で授業改善の状況についての成果と課題を協議し、次年度の各教科等の指導のポイントを作成し、発信していきます。鳥取県教育の目指す児童生徒の姿を全県で共有し、同じ方針で取り組めるようにするとともに、今後の授業づくりに活用いただきますようお願いします。

自分の考えを持ち、自分なりの表現ができるということは、本県が全ての教育施策の基軸としている「ふるさとキャリア教育」の目指す児童生徒像にもつながります。ふるさと鳥取に誇りと愛着を持ち、自分らしい生き方を実現するとともに、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる児童生徒の育成へ向けて取り組んでいただきますよう重ねてお願いします。

## 【令和6年度 各教科等における授業の実施の状況と今後の取組に向けて】

各教科等における授業の実施の状況について、令和6年度学校教育実施状況調査の結果及び学校訪問等を通して見えてきたことをもとに、令和6年度の各教科等の指導のポイントに照らして分析するとともに、今後の取組に向けて必要と考えられることなどを、教科等ごとに以下にまとめました。（※なお、表の数値は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示しています。）

### 国 語

| 指導上、努力した事項 | 指導事項を明確にし、指導と評価の一体化を図り、考え、表現する資質・能力を育成する授業づくり | 思考力、判断力、表現力等の活用を意識した単元構成 |
|------------|-----------------------------------------------|--------------------------|
| 小学校        | 93. 2%                                        | 58. 1%                   |
| 中学校        | 80. 4%                                        | 58. 9%                   |

- ・指導事項を明確にした授業づくりの意識は高まっている。今後は授業や単元において、育成したい資質・能力に適した言語活動を設定する必要がある。
- ・特に小学校では思考力、判断力、表現力等の活用を意識した単元づくりに取り組んだ成果が出ており、引き続き昨年度と同じ方向性で取組を進めていく必要がある。

### 社 会

| 指導上、努力した事項 | 社会的な見方・考え方を働かせて自分の考えを深める単元構成の工夫 | よりよい社会の在り方について広い視野から考えようとする態度を養う学習活動の充実 |
|------------|---------------------------------|-----------------------------------------|
| 小学校        | 53. 0%                          | 62. 4%                                  |
| 中学校        | 83. 9%                          | 50. 0%                                  |

- ・小学校では、内容のまとまりごとに学習課題を設定し、1時間の授業を積み重ねることによって解決に向かうような単元構成を意識して授業づくりを行う必要がある。
- ・中学校では、単元を貫く問いを設定し、1時間ごとのまとめを利用して単元全体のまとめにつながるような単元構成を意識した授業づくりが行われている。
- ・小中学校ともに、学習したことが今の社会にどのようにつながっているのかを意識させるような活動を単元構成の中に仕組む必要がある。

### 算数、数学

| 指導上、努力した事項 | 身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくり | 数学的な表現を柔軟に用いて表現する力の育成 |
|------------|--------------------------|-----------------------|
| 小学校        | 96. 6%                   | 70. 1%                |
| 中学校        | 91. 1%                   | 73. 2%                |

- ・1時間の授業の中で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にする意識や、数学的に表現する活動を大事にした授業づくりへの意識は高まっている。
- ・問題解決の過程において、全ての児童生徒が数学的な表現を柔軟に用いて表現する場面や、考えを洗練させていくような場面を充実させ、主体的に学ぶ児童生徒を育成する必要がある。

## 【令和6年度 各教科等における授業の実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示しています。

### 理 科

| 指導上、努力した事項 | 「問い」を見だし、他者の考えや意見を受け入れながら探究的活動を充実させる単元の構想 | 観察、実験等を行い、多様な形式で整理・分析し、問題解決の力を養う言語活動の充実 |
|------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 小学校        | 64. 1%                                    | 70. 9%                                  |
| 中学校        | 57. 1%                                    | 83. 9%                                  |

- ・児童生徒自身が「問い」を見いだすことのできる学習場面の設定について工夫する必要がある。
- ・観察、実験などの技能の定着を図るとともに、観察、実験の結果を多様な形式で整理・分析し、問題解決の力を養う言語活動の充実を意識した授業については、理科の授業づくりの根幹でもあり、引き続き意識して取り組んでいく必要がある。

### 生 活

| 指導上、努力した事項 | 体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される単元構成 | 年間を通じて他教科と合科的・関連的な指導を図る |
|------------|------------------------------|-------------------------|
| 小学校        | 70. 1%                       | 72. 6%                  |

- ・児童の思いや願いを大切にし、児童が具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きの質を高めていくような単元づくりや、児童が身に付けた資質・能力を一層確かなものとしていけるように、教科等横断的な視点で教育課程を工夫することについて意識されてきている状況にあるので、引き続きその取組を進めていく必要がある。なお、教育課程の工夫にあたっては、園と小学校等が子どもの育ち（姿）を中心に捉えた対話を通して、相互理解や実践を深めていく必要がある。

### 外国語活動、外国語（英語）

| 指導上、努力した事項 | 言語活動を通して、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成 | 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の設定と、目標達成に向けた指導と評価の一体化 |
|------------|--------------------------------|----------------------------------------------|
| 小学校        | 98. 3%                         | 49. 6%                                       |
| 中学校        | 98. 2%                         | 62. 5%                                       |

- ・「言語活動を通したコミュニケーションを図る資質、能力の育成」の考え方は浸透してきているので、児童生徒が使いながら英語を身に付けられる学習過程を一層意識して授業づくりに取り組む必要がある。
- ・学年末や単元末に、英語を使って何ができるようになるかを明確にした単元構成や授業構成を行うことが必要である。

## 【令和6年度 各教科等における授業の実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示しています。

### 音 楽

| 指導上、努力した事項 | 音楽に対する感性を働かせながら音楽に親しみ、主体的・協働的に学ぶ授業づくりの充実 | 生活や社会の中の音や音楽、（中学校：音楽文化）と豊かに関わる資質・能力の育成 |
|------------|------------------------------------------|----------------------------------------|
| 小学校        | 79.5%                                    | 49.6%                                  |
| 中学校        | 80.4%                                    | 60.7%                                  |

- ・「児童生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることのできる活動」を設定し、聴き取ったことと感じ取ったこと（中：知覚感受）をもとに、授業を展開しようとしている。これは学習指導要領の〔共通事項〕アでも示されている内容であり、引き続き意識して取り組んでいく必要がある。
- ・めざす資質・能力を明確にした授業づくりと合わせて、授業で学んだことと生活や社会の中の音や音楽（中：音楽文化）との関わりについて、地域行事や季節、教科等横断的な視点での指導を意識し、題材構成を工夫していく必要がある。

### 図画工作、美術

| 指導上、努力した事項 | 児童生徒が造形的な見方・考え方を働かせられるような指導の工夫 | 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実 |
|------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 小学校        | 70.9%                          | 59.8%                         |
| 中学校        | 73.2%                          | 75.0%                         |

- ・造形を豊かに捉える多様な視点もてるよう、〔共通事項〕を意識した授業づくりの工夫が見られ、見方や感じ方を広げたり深めたりする授業が増えてきているので、より実感的に理解できるような学習活動を工夫していく必要がある。
- ・表現と鑑賞の指導の関連を図る際に、単に表現のための参考作品として表面的に作品を見せるのではなく、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸に、授業を構成する必要がある。

### 体育、保健体育

| 指導上、努力した事項 | 運動の特性や楽しみ方を明確にし、楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくり（運動に関する領域） | 健康・安全に関する課題を発見し、解決するための授業づくり（保健に関する領域） |
|------------|------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 小学校        | 77.8%                                          | 49.6%                                  |
| 中学校        | 87.5%                                          | 53.6%                                  |

- ・「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体育、保健体育の授業は楽しいと回答している児童生徒は増加しており、授業改善の意識が子どもたちの意欲の向上にもつながっていると考えられるため、引き続き楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくりを進めていく必要がある。
- ・特に保健に関する領域において、自ら課題を見つけ、思考し、解決していく授業づくりを行っていく必要がある。

## 【令和6年度 各教科等における授業の実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示しています。

### 家庭・技術・家庭（家庭分野）

| 指導上、努力した事項 | 問題解決的な学習過程の工夫 | 小・中における系統的な資質・能力の育成 |
|------------|---------------|---------------------|
| 小学校        | 70.9%         | 46.2%               |
| 中学校        | 83.9%         | 37.5%               |

- ・児童生徒が課題を自分事として捉え、課題解決に向けて主体的に思考する学習過程が意識されてきており、今後も引き続き高い意識を持って授業づくりを進めていくことが重要である。
- ・小・中それぞれの段階における目標や内容を確認し、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりを行う必要がある。

### 技術・家庭（技術分野）

| 指導上、努力した事項 | 「社会の発展と技術」の学習を意識した授業づくり | 言葉や図表、概念などを用いて考え、説明する活動の充実 |
|------------|-------------------------|----------------------------|
| 中学校        | 39.3%                   | 33.9%                      |

- ・各内容における題材を具体的な社会問題（地域特産品産業の発展、気候変動への適応等）と結びつけ、議論を展開する等、学習過程において「社会の発展と技術」の要素を位置付けながら、学びの意義が深まるような工夫を行うことが必要である。
- ・技術を「環境」、「経済」、「社会的側面」等と関連付けながら考えたり、社会科の流通に関する内容等と関連付けたりと、実生活や各教科等と結び付けた授業が行われている。今後は、さらに言葉や図表、概念などを用いて説明する活動を充実させていく必要がある。

### 特別の教科 道徳

| 指導上、努力した事項 | 「考え、議論する道徳」の確実な実施 | 明確な指導の意図をもった授業づくりとカリキュラム・マネジメントの実施 |
|------------|-------------------|------------------------------------|
| 小学校        | 81.2%             | 53.8%                              |
| 中学校        | 85.7%             | 48.2%                              |

- ・児童生徒が自分の感じ方や考え方をより明確にできるよう、ねらいに迫るための発問の工夫を意識した授業づくりが行われており、今後も「考え、議論する道徳」の確実な実施に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・学習指導要領解説に基づき、手がかりとする内容項目について発達の段階をふまえて理解するなど、明確な指導の意図をもった授業づくりを行う必要がある。

## 【令和6年度 各教科等の授業実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

### 総合的な学習の時間

| 指導上、努力した事項 | 全体計画、年間指導計画（単元配列表）を踏まえ、工夫して表現するための単元の指導計画と評価計画の改善 | 主体的かつ協働的に学ぶ「探究的な学習の過程」の実現 |
|------------|---------------------------------------------------|---------------------------|
| 小学校        | 81.2%                                             | 71.8%                     |
| 中学校        | 69.6%                                             | 66.1%                     |

- ・工夫して表現するための単元の指導計画と評価計画の改善は、特に小学校において多くの学校で実施されており、今後も確実に実施していく必要がある。
- ・グループ等で実際に地域に出かけたり、ゲストティーチャーの地域住民等から話を聞いたりするなど、多様な情報を活用しながら、他者と協働して主体的に取り組む学習活動を行っている。
- ・学習過程を探究的にするため、児童生徒が自ら課題を立てるための教師の意図的な働きかけを行ったり、児童生徒が自覚的に情報を収集する学習活動を展開したりする必要がある。

### 特別活動

| 指導上、努力した事項 | 思考の可視化・操作化・構造化を意識したよりよい合意形成のための話し合い活動の充実【学級活動（1）】 | 目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実【学級活動（2）（3）】 |
|------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 小学校        | 84.6%                                             | 70.1%                                       |
| 中学校        | 39.3%                                             | 83.9%                                       |

- ・【学級活動（1）】小学校では板書を活用して思考を深める授業が行われる等、よりよい合意形成のための話し合い活動の充実が図られている。
- ・【学級活動（2）（3）】話し合い活動を通して、個人の目標の実現を目指した意思決定ができつつあるので、引き続き目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実を図っていく必要がある。
- ・中学校では、小学校での積み重ねや経験を生かしつつ、生徒主体の話し合い活動を充実させるために、活動の内容や方法を明確にし、生徒が意見を発表しやすいように指導を工夫する必要がある。

## 【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

### 各教科等の指導のポイント

※QRコードを読み込む際は、他のQRコードを隠すと認識しやすくなります。

#### 「国語」

### ①指導事項を明確にし、指導と評価の一体化を図り、考え、表現する資質・能力を育成する授業づくり

- 年間指導計画や学習指導要領解説を確認することで、単元で扱う指導事項を焦点化し、教科書等の教材以外の文章を読むときにも発揮できる資質・能力を育成する授業づくりを行う。
- 指導事項を身に付けることができる言語活動を設定し、どのような姿が見られれば単元で扱う指導事項が身に付いたと言えるのかを想定して単元の評価規準を設定し、具体的な評価基準を明確にする。

Step 1 単元で取り上げる指導事項の確認

Step 2 単元の目標と言語活動の設定

Step 3 単元の評価規準の設定

Step 4 単元の指導と評価の計画の決定

Step 5 評価の実際と手立ての想定

### ②思考力、判断力、表現力等の活用を意識した単元づくり

- 身に付けた資質・能力を初読の文章で活用する機会を設定する。  
例：教科書で学習した後、共通の資料を読み取り、さらに自分で選んだ本を読み取る。
- 条件に合うように表現する活動を設定する。

【条件の例】①時間制限 例：○分以内  
②字数制限 例：○字以上、○字以内  
③内容・構成等 例：・結論を先に述べる ・要約を挿入する  
・キーワードを挿入する ・接続詞を使う ・自分の考えを書く

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小国語)



(中国語)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(国語)



#### 「社会」

### ①社会的な見方・考え方を働かせて自分の考えを深める単元構成

- 児童生徒が見方・考え方を自ら働かせて社会的事象の意味を考えていけるように、単元など内容や時間のまとまりを見通して問い（学習課題）を設定し、1単位時間の学習を積み重ねることで解決に向かう学習過程を展開する。

単元を通した学習過程のイメージ(例)

| 課題把握                                                                                              |                                                                                                    | 課題追究                                                                                                  |                                                                                                                                                                              | 課題解決                                                                                                                      | 新たな課題                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 動機付け                                                                                              | 方向付け                                                                                               | 情報収集                                                                                                  | 考察・構想                                                                                                                                                                        | まとめ                                                                                                                       | 振り返り                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題の設定</li> <li>・社会的事象を知る</li> <li>・気づきや疑問を出す</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の見通し</li> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●予想や仮説の検証</li> <li>・観察や調査活動を行う</li> <li>・資料を活用して調べる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●社会的事象の意味や意義、相互の関連を考察</li> <li>・多面的・多角的に考察する</li> <li>・話し合う</li> <li>●社会に見られる課題を把握し解決に向け構想</li> <li>・様々な意見を踏まえ解決に向け選択・判断する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●考察・構想のまとめ</li> <li>・結論をまとめる</li> <li>・結論について話し合う</li> <li>・レポートなどにまとめる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習の振り返り</li> <li>・調べ方や学び方を振り返る</li> <li>・新たな問い（課題）を見いだす</li> </ul> |

### ②よりよい社会の在り方について広い視野から考えようとする態度を養う学習活動の充実

- 根拠を明確にして自分の意見や考え方を説明したり議論したりし、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしながら、よりよい社会の在り方や自分たちの行動や生活の仕方などについて考える場面を取り入れる。（※波線は中学校）

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小社会)



(中社会)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(社会)



#### 「算数、数学」

### ①身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童生徒が「わかった、できた」と実感できる授業づくり

- 単元を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の具体的な姿をイメージする。
- 児童生徒が主体的に取り組むことができる本時のねらいを設定し、身に付けさせたい資質・能力を児童生徒と共有する。
- 適用題の内容の精選や取り組み機会の設定、振り返りの充実等を図り、ねらいの達成状況を適切に把握して指導や支援に生かす。

### ②数学的な表現を柔軟に用いて表現する力の育成

- 数学的活動を楽しみながら自己の考えを表現することができる機会を設ける。
- 具体物、図、数、式、表、グラフ等を相互に関連付けながら、問題解決の場面や目的に応じて活用できるようにする。
- 問題解決の過程や考察したこと等を相手に分かりやすく説明できるようにする。  
(例) 数値や条件を変えて確かさを説明する。数や式、図表等を指し示しながら説明する。  
かき(加え)ながら説明する。操作したり具体を示したりしながら説明する。等

※説明3類型(事実・事柄、方法・手順、理由)のうち、何を説明させるのかを明確にする。

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(算数)



(数学)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(算数、数学)



## 【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

### 各教科等の指導のポイント

※QRコードを読み込む際は、他のQRコードを隠すと認識しやすくなります。

#### 「理 科」

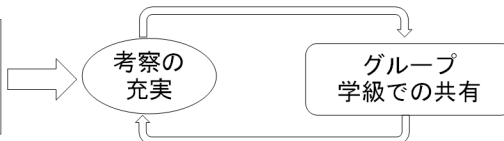
##### ①「問い」を見だし、他者の考えや意見を受け入れながら探究的活動を充実させる単元の構想

- 既習事項や自然の事物・現象の提示、日常生活における経験などを基に、「問い」を見いだすことができるような学習場面を設定する。
- 観察、実験などの結果を基に、予想や仮説と照らし合わせて考察し、他者の考えや意見を受け入れながら、自分の考えを児童生徒自らが説明できる学習場面を設定する。
- 学習の連続性を意識し、習得した知識を、次の学習や生活などに生かすことができるようにする。

##### ②観察、実験等を行い、多様な形式で整理・分析し、問題解決の力を養う言語活動の充実

- 観察、実験の結果を多様な形式で整理・分析し、考察する学習活動や科学的な言葉・概念を用いて考えたり説明したりする学習活動を充実させるようにする。

- ・観察記録や実験データを図、表、グラフなどに表す
- ・ICT端末を活用し、画像や動画を活用する
- ・イメージを図で表す  
(例：飽和水溶液の様子、空気と水の圧縮 等)



「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小理科)



(中理科)



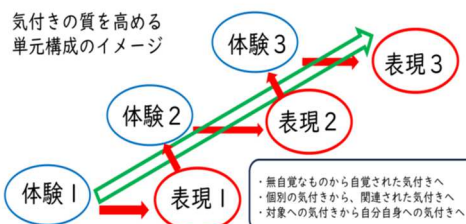
鳥取県学校教育のめざすもの  
(理科)



#### 「生 活」

##### ①体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される単元構成

- 児童が、やってみたい、知りたいと自分の思いや願いを持ち、具体的な活動や体験を行い、感じたり考えたりしたことを友達と交流し、伝え合うなど表現していく学習過程を大切にする。
- 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新しい気付きを得たりするようにするため、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの学習活動を重視する。



「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(生活)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(生活)



##### ②年間を通じて他教科と合科的・関連的な指導を図る

- 生活科の学習成果を他教科等の学習に生かしたり、他教科等の学習成果を生活科の学習に生かしたりすることで、児童が身に付けた資質・能力を一層確かなものとしていけるように、教科等横断的な視点で教育課程を工夫する。

【例】  
1年生 色水を使った夏遊びの単元  
→ 図画工作の色水遊びとつながりが感じられる授業  
2年生 地域に出て生き物を探す単元  
→ 算数で学んだ表やグラフを使って生き物の数をまとめる授業

#### 「外国語活動、外国語（英語）」

##### ①「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の設定と、目標達成に向けた指導と評価の一体化

- 学年ごとで、英語を使って何ができるようになるかを明確にした領域別の学習到達目標（「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標）及び評価規準を設定する。
- 学年末や単元末の児童生徒の姿から逆算するバックワード・デザインによる単元構成、授業構成を行う。

##### ②言語活動を通して、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成

- 言語活動を行うにあたっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等を明確に設定し、相手意識を持って自分の気持ちや考えを伝え合うことができるようにする。
- 言語活動を一度きりで終わらず、言語面や内容面についての指導や、言語材料について理解や練習を行う場面を適宜設けて、再度活動に取り組ませる等、児童生徒が使いながら英語を身に付けられる学習過程を設定する。



最初よりも、英語を使って  
できることが増えた！

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小外国語活動・外国語)



(中外国語)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(小外国語活動・外国語)



## 【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

### 各教科等の指導のポイント

※QRコードを読み込む際は、他のQRコードを隠すと認識しやすくなります。

#### 「音楽」

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小音楽)

### ①音楽に対する感性を働かせながら音楽に親しみ、主体的・協働的に学ぶ授業づくりの充実

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、児童生徒が音楽的な見方・考え方を働かせながら音楽を楽しむ雰囲気・授業づくりを行う。

中学校の  
取組例

同じ日本歌曲で演奏者が異なるものを聴き比べ、思いや意図をもった表現を味わう。その後、「夏の思い出」を歌う際、リズムや強弱がもたらす働きを捉えて歌うだけではなく、尾瀬の景色や雰囲気を感じたり、曲想と歌詞からイメージする感情や季節感などを他者と対話したりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを通して、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさを見いだしたりするなどの活動を設定する。



(中音楽)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(音楽)



### ②生活や社会の中の音や音楽、(中学校：音楽文化)と豊かに関わることでできる資質・能力の育成

- めざす資質・能力を明確にし、児童生徒が聴き取ったことと感じ取ったこと(中学校：知覚・感受)を支えとし、思いや意図をもって活動できるよう表現及び鑑賞の題材を構成する。
- 音楽を形づくっている要素(速度やリズム等)及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解し、表現や鑑賞に生かす。

#### 「図画工作、美術」

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小図画工作)

### ①児童生徒が造形的な見方・考え方を働かせられるような指導の充実

- 各題材で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、〔共通事項〕に示してある「知識」の内容(指導事項)の中で何を習得・活用させるのか、ということを具体的に意識して授業づくりを行う。
- 〔共通事項〕の指導に当たっては、児童生徒が自分の感覚や行為等を通して実感的に理解できるような学習活動を工夫するとともに、イメージがもちにくい場合は、必要に応じて具体例を示すなどの手立てを行う。

### ②表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の工夫

- 表現と鑑賞を関連させる中で、児童生徒が自ら造形的な視点に気付くことができるような授業づくりを工夫し、子どもたちが自ら強く表したいことを心の中に思い描いて、豊かに発想や構想ができるようにする。
- 鑑賞の学習においては、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸にそれぞれの資質・能力を高められるようにする。
- 実物を見たり、実際に対象に触れたりするなどして感覚で直接感じ取らせる学習活動を工夫し、児童生徒の実感的な理解につなげる(ICTを活用する学習活動は、題材のねらいに応じてその必要性を十分に吟味する)。



(中美術)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(図画工作、美術)



#### 「体育、保健体育」

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小体育)

### ①運動の特性や楽しみ方を明確にし、楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくり

(運動に関する領域)

- 児童生徒がいろいろな運動を通して、その運動の特性や楽しみ方(何を学ぶのか)を理解し、楽しさに迫るための課題追究を主体的に行う学習展開(どのように学ぶのか)を意識することで、指導の改善を図る。
- 単元を通して「する・みる・支える・知る」の多様な関わりで運動に親しむことができるように、指導の改善を図る。

### ②健康・安全に関する課題を発見し、解決するための授業づくり

(保健に関する領域)

- 単元や本時の目標を踏まえた「課題発見」「課題解決」「表現」などの活動を適切に取り入れることができるよう指導の改善を図る。
- 健康課題が運動や日常生活と関連性があることが理解できるよう、運動領域(体育分野)や他教科等と関連を図った指導を行う。



(中保健体育)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(体育、保健体育)



## 【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

### 各教科等の指導のポイント

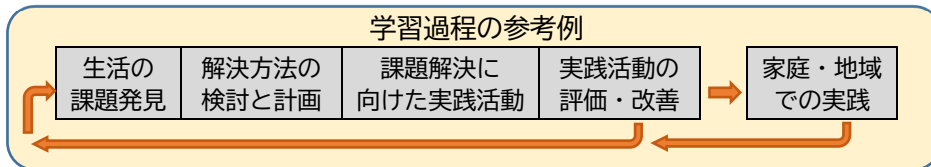
※QRコードを読み込む際は、他のQRコードを隠すと認識しやすくなります。

#### 「家庭・技術・家庭（家庭分野）」

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小家庭)

##### ①問題解決的な学習過程の工夫

- 児童生徒が自分の生活に目を向けて、問題点を見だし、話し合う場面を設け、児童生徒が解決したいと思える課題の設定につなげる。
- 習得した「知識及び技能」を活用し、児童生徒が課題の解決に向けて、計画・実践し、実践について評価・改善をする過程で、根拠や理由を明確にして自分の考えを伝え合う場面を設ける。



(中家庭分野)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(小家庭・中技術・家庭)



##### ②小・中における系統的な資質・能力の育成

- 小・中それぞれの段階における目標や内容のつながりを意識し、小・中5年間を見通した題材の配列を工夫する。
- 学校や地域の実態、児童生徒の生活における興味・関心、学習経験等を踏まえた実践的・体験的な学習活動を工夫し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせられるようにする。

#### 「技術・家庭（技術分野）」

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(中技術分野)

##### ①「社会の発展と技術」の学習を意識した授業づくり

- 技術分野では、技術の発達を主体的に支える力や技術革新を牽引する力の素地となる、技術の評価、選択、管理・運用、改良、応用することによって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することをねらいとしている。このねらいを達成するために、以下のような学習過程のイメージを基に題材計画をたてる。

【構成する三要素を位置付けた題材の流れ】

| 生活や社会を支える技術                                                              | 技術による問題の解決                                                                      | 社会の発展と技術                                               |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| これまで開発された生活や社会で利用されてきた技術について、その仕組みと関係する科学的な原理・法則を理解するとともに、それらに係る技能を習得する。 | 生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想して具体化したり、自らの問題解決を振り返ったりするといった技術による問題解決を経験する。 | この経験を基に今後の社会の発展と技術の在り方について考える。<br>中学生なりに技術と社会の関わりを考える。 |

鳥取県学校教育のめざすもの  
(小家庭・中技術・家庭)



##### ②言葉や図表、概念などを用いて考え、説明する活動の充実

- 生活や社会における技術に関わる課題を解決するために、言葉だけでなく、設計図等の図表やものづくりに関する概念などを用いて考えたり説明したりする。
- 情報通信ネットワーク等の特性を生かし、考えを伝え合う活動を充実させる。

#### 「特別の教科 道徳」

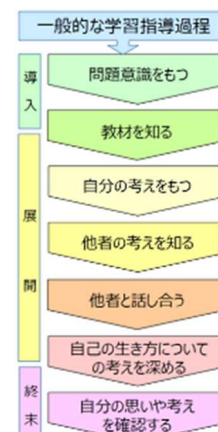
「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小道德)

##### ①「考え、議論する道徳」の確実な実施

- ねらいに迫るための発問を吟味し、児童生徒が主体的に自分との関わりで考える場面や他者の多様な考え方、感じ方と出会い、交流する場面を設定することで、児童生徒の自分の感じ方、考え方をより明確にさせる。  
例：登場人物を自分に置き換え具体的にイメージして理解する  
自分自身を振り返り自らの行動や考えを見直す 等
- 自己の（中学校：人間としての）生き方についての考えを深める時間を確保する。

##### ②明確な指導の意図をもった授業づくりとカリキュラム・マネジメントの実施

- 「道徳的価値」「児童生徒の実態」「教材の活用」を踏まえた、明確な指導の意図をもつ。
- 主題の設定と配列を工夫し、児童生徒や学校の実態に応じた重点的な指導、他の教育活動及び地域社会の行事等と関連させる。



(中道德)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(特別の教科 道徳)



## 【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

### 各教科等の指導のポイント

※QRコードを読み込む際は、他のQRコードを隠すと認識しやすくなります。

#### 「総合的な学習の時間」

##### ①全体計画、年間指導計画（単元配列表）を踏まえ、工夫して表現するための単元の指導計画と評価計画の改善

- 「児童生徒の興味・関心」「教師の意図」「教材の特性」の3つの視点から、中心となる活動を思い描き、教科等横断的な視点で単元を構想する。
- 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を明確にし、単元計画を具体的に書き表しながら単元の評価規準を設定し、評価場面や評価方法を位置付ける。

##### ②主体的かつ協働的に学ぶ「探究的な学習の過程」の実現

- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルによる探究の過程のイメージをもち、学習過程を探究的にすることで深い学びにつなげる。
- 多様な情報を活用し、異なる視点から考え、力を合わせたり交流したりしながら主体的かつ協働的に学び、調べたことを発信する場面を設定する。

今、求められる力を高める  
総合的な学習の時間の展開  
(文部科学省)



【小学校編】



【中学校編】

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小総合)



(中総合)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(総合的な学習の時間)



#### 「特別活動」

##### ①よりよい合意形成のための話し合い活動の充実 学級活動(1)

- 小学校では板書を可視化・操作化・構造化することで思考の流れを分かりやすくし、中学校ではその積み重ねや経験を生かしつつ、生徒主体の話し合い活動を充実させるために活動の内容や方法を明確にし、生徒が意見を発表しやすいように指導を工夫する。
- 児童生徒が主体的に自分の意思を持つことができるよう、「自分自身に何ができるのか、何を行うべきか」という視点を与え、考えさせるようにする。

##### ②目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実

学級活動(2)(3)

- 相手の意見を聞き、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして、より自分に合った解決方法を自分で決められるよう話し合い活動の過程を工夫する。
- 気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、事後指導においても、それを基に、教師と対話をしたり、児童同士、生徒同士の話し合いを行ったりして、自分のよさ、興味・関心など、多面的・多角的に自己理解が深められるようにする。

「とっとり『学びの部屋』  
(Google サイト)」  
(小特別活動)



(中特別活動)



鳥取県学校教育のめざすもの  
(特別活動)



#### 「とっとり『学びの部屋』」等 QRコード

鳥取県教育委員会 Google アカウントで

ログインが必要

とっとり「学びの部屋」  
トップページ



鳥取県教育センター  
教職員研修「研修動画」



鳥取県教育委員会  
小中学校課ホームページ



## 基本理念 自立して心豊かに 幸せな未来を創造する ふるさとと誇りの人づくり

## 基本理念を支える4つの「力と姿勢」

## 自立して生きる力

- ・生きていくために必要な知識、技能、教養を備え、学び続ける姿勢
- ・論理的・客観的な根拠を基に主体的に考え、判断し、他者と協調しながら課題を解決していく力
- ・志を高く持ち、自らの夢を描きながら粘り強く挑戦し、実行していく力

## 豊かな心と健やかな体

- ・心とからだの健康づくりや体力の向上に取り組む姿勢
- ・思いやり、たくましさ、感動する心と豊かな人間性を発揮できる力
- ・文化芸術、スポーツ、読書やボランティアなどの活動に積極的に取り組む姿勢

## 社会の中で支え合う力

- ・人々との関わりを大切に、コミュニケーションを豊かにすることのできる力
- ・自己とともに尊重し、人権や命、多様性を大切にして共に生きる姿勢
- ・社会の一員としての自覚と規範意識を持ち自らを律する力

## ふるさと鳥取県に誇りと愛着を持ち、未来を創造する力

- ・ふるさとの自然、歴史と伝統を守り、受け継ぐこととする姿勢
- ・地域やふるさとに誇りと愛着を持ち、その発展に貢献しようとする姿勢
- ・グローバルな視点を持ち、社会の変化に対応しながら新たな価値を創造していく力

1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を支えていくことができる人材

## 「ふるさとキャリア教育」のめざす人間像

## 6つの目標と特に力を入れたい25の施策と重点取組

## 01 社会全体で学び続ける環境づくり

## (1) 社会全体で取り組む教育の推進

- 学校、家庭、地域の連携・協働の推進
- コミュニティ・スクールと地産学校協働活動の一体的推進
- 学校、地域の連携による、ふるさとへの誇りと愛着を高める教育の充実

## (2) 家庭教育の充実

- 全ての人が生涯学習、活躍できる機会を創出
- 保護者の学習機会の創出
- 隔ける家庭教育支援の推進

## (3) 生涯学習の環境整備と活動支援

- 全ての人が生涯学習、活躍できる機会を創出
- 図書館、博物館、美術館等の社会教育施設等の機能の充実
- 生涯学習の心豊かに育む教育の充実

## 03 多様な教育ニーズに応じた誰一人取り残さない学びの創造

## (10) 特別支援教育の充実

- 障がいの状態や発達段階に応じた教育の充実と専門性の向上
- インクルーシブ教育システムの推進に向けた環境整備及び合理的配慮の充実

## (11) いじめ、不登校等に対する対応強化

- いじめ、不登校等の未然防止、早期発見、早期支援

## (12) 多様なニーズに応える学びのセーフティネットの構築

- 貧困・格差等の社会課題への対応、不登校生徒等に対する多様な学びの場の確保

## (13) 県立夜間中学における自分らしい学びの展開

- 県立夜間中学における学び直しの機会の提供

## 04 学びを支える教育環境の充実

## (14) 魅力ある学校づくり、特色ある学校運営の推進

- 県立高校の在り方の根本的な検討
- 県立高校の魅力化・特色化
- 地域とともにある学校づくり・魅力発信

## (15) 次代の学校教育を担う使命感・実能力を備えた教職員の確保・育成

- 大量退職期における、魅力ある教職員の確保・育成
- 教師DXを通じて学校における働き方改革の推進
- 学校を支える教員・業務支援員や部活動指導員など専門スタッフの充実

## (16) 安全・安心で質の高い教育環境の整備

- 学校の施設設備の充実
- 県立県中県立高等学校を基盤とした学校の防災力強化等、安全・安心な教育環境づくりの推進

## (17) 私立学校への支援の充実

- 私立学校の多様な取組への支援

## 05 生涯にわたる健やかな体づくりと運動、スポーツの推進

## (18) 健やかな心と体づくりの推進

- 子どもたちの体力・運動能力の向上、健康教育及び食育の推進

## (19) ライフスタイル活動の充実

- 幼児期からの年齢・成長に合わせた運動習慣づくり
- 障がい者スポーツの推進

## (20) トップアスリートの育成

- ジュニア層からトップレベルに至る体系的な指導体制等の充実

## (21) 子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の機会確保に係る環境整備・充実

- 児童生徒が地域においてスポーツ・文化芸術に親しみ活躍の充実

## 06 文化、伝統、豊かな自然の継承、再発見、芸術の創造

## (22) 文化芸術活動の一層の振興

- 子どもたちや若者が文化芸術に触れ、感性を高める機会の提供
- 障がい者による文化芸術活動の推進

## (23) 美術館整備による文化芸術の創造・発展

- 子どもたちをはじめとしたすべての人たちの「アートを通じた学び」の支援

## (24) 文化芸術の発展を担う人材の育成

- 質の高い文化芸術に触れる機会や体験をとおし、豊かな才能や個性を引き出し、鳥取県文化芸術の発展を担う人材の育成

## (25) 文化財の保存・活用、伝承

- 祭り、行事などを地域で伝承していく活動の支援
- ふるさとの自然、歴史に触れ学ぶ機会の充実
- 弥生・縄文時代の活用・推進

## ●鳥取県教育振興基本計画の推進に向けた体制

◆県民やNPO、企業、地域団体との連携・協働による計画の推進

◆市町村、国、高等教育機関等の連携・協力の推進

◆進捗管理



# 「ふるさとキャリア教育」を基軸とした人材育成

鳥取県における「ふるさとキャリア教育」のめざす人間像

1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材



## 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

### みんなで創ろう！ とっとりの学び



鳥取県の子どもたちが、さらに伸びていくための

### とっとりの授業改革【10の視点】

#### 知的好奇心の喚起

##### ① 魅力的な課題・教材の提示

- ・自ら問いを見出し、調べてみたい、みんなで考えてみたい課題や教材を提示する
- ・学習への見通しを持たせる

##### ② 体験的な学習の充実

- ・これまで学んだこととのつながりを意識させる
- ・地域の人・もの・ことなど日常生活とのつながりを意識させる
- ・具体物や視聴覚教材を使用する
- ・実験や作業を取り入れる

#### 活用する力を育てる 言語活動と学習評価

##### ③ 資料の活用

- ・問題解決に必要な資料を使って調べたり、考えたりする学習を設定する
- ・考えの形成のために情報を精査させる

##### ④ 思考の整理

- ・調べたことやわかったことをノートに書かせる
- ・問題の解き方や考え方をノートに書かせる

##### ⑤ 説明・発表の機会の充実

- ・考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動を設定する

##### ⑥ 学び合う活動の充実

- ・ねらいをはっきりさせ、新しい考えを、みんなで生み出す活動を設定する
- ・考えを広げたり深めたりする活動を設定する
- ・意見交換や議論の場を設定する

指導と評価の一体化

##### ⑦ 学習評価の推進

- ・一人一人の学習状況や実現状況を把握する
- ・個に応じた手立てや支援を行う

#### 次につながる振り返り

##### ⑧ 学習を振り返る活動の設定

- ・「振り返り」の時間を設定し、達成感・成就感を味わわせる
- ・次の学習の課題やポイントがつかめるよう工夫する

##### ⑨ 家庭学習と連動した学びの定着

- ・学校で学んだことが家庭での復習や予習および自主的な学習につながるような支援に努める

#### ⑩ 落ち着いたのびのびと学べる環境づくり（学びの集団・人間関係づくり）

## 鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標【教諭等】

令和6年4月1日 鳥取県教育委員会

| 職                                                                                   |                             | 教諭等・主幹教諭・教頭・副校長                                    |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 指針における5つの柱<br>観点<br>キーワード                                                           | ステージ                        | キャリア<br>スタート期<br>(教員養成<br>完成時・<br>採用時)             | 育成期(第1ステージ)<br>(1～5年目)                                                              | 向上期(第2ステージ)<br>(6～10年目)                                                                                 | 充実期(第3ステージ)<br>(11年目以降)                                                                                 |                                                                                |
|                                                                                     |                             |                                                    | 教員としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。                       | 第1ステージの経験をもとに、学習指導や学級経営の専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。                                  | 第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性をよりいっそう高め、広い視点から学校運営に積極的に参画するとともに、指導的立場としての力量及び管理的立場としての力量(マネジメント能力)を高める。        |                                                                                |
|                                                                                     |                             |                                                    |                                                                                     |                                                                                                         | 充実期前期<br>(11～15年目)                                                                                      | 充実期後期<br>(16年目以降)                                                              |
| 教職に必要な素養に主として関するもの                                                                  |                             |                                                    |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
| 素<br>養                                                                              | 豊かな人間性、創造力、寛容性、人権意識         | よりよい社会の実現に向け、自他の価値を尊重し、自らの人間性や創造性を高めることができる。       |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
|                                                                                     | 前向きな姿勢、向上心、適応力              | 学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、学び続けることができる。               |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
|                                                                                     | 教育的愛情、児童生徒理解、判断力            | 児童生徒に対する理解を深め、自発的・主体的な成長や発達を支援することができる。            |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
|                                                                                     | 専門的知識・技能、指導力、構想力            | 教科等の専門的知識・技能を有し、児童生徒の主体的な学びを支援することができる。            |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
|                                                                                     | 社会性、協調性、コミュニケーション力          | 学校組織の一員として、学校内の多様な人材、家庭や地域等と連携・協働を図ることができる。        |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
| 学<br>校<br>運<br>営<br>・<br>教<br>職<br>員<br>連<br>携                                      | 使命感、責任感、倫理観                 | 教育公務員としての倫理観及び法令遵守の精神に基づき、責任ある言動をとることができる。         |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
|                                                                                     | 学校安全への対応                    | ・学校教育の社会的・制度的・法的・経営的理解に関する基礎理論・知識を習得している。          | ・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるための適切な対応や危機の未然防止に努めている。                | ・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、学年や学校全体を広く見渡す視点に立って、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。                            | ・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。                                                         | ・学校全体の視点に立って、危機の未然防止や危機発生時の具体的な対応策について、校長に進言したり、教職員に指示したりするなどの対応を行っている。        |
|                                                                                     | 家庭・地域とつながる力                 | ・地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。            | ・学校、家庭、地域との連携・協働                                                                    | ・家庭・地域と連携・協働し、児童生徒を共に育んでいこうとする関係を築いている。                                                                 | ・家庭・地域・関係機関等と連携・協働し、組織的な対応をしながら児童生徒の指導を推進している。                                                          | ・家庭・地域・関係機関等との連携・協働を通じて、必要情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。                 |
|                                                                                     | 組織として連携・協働する力(同僚、関係機関、異職種)  | ・集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。             | ・目標・業務改善・ICT等による業務の効率化・事務・外部・チームマネジメント・協働的教職員集団づくり                                  | ・管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。                                        | ・同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異職種との連携を適切に行っている。                                                         | ・学年や教科等の組織から学校全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。                   |
|                                                                                     |                             |                                                    | ・働き方改革の目的を理解し、ICTの効果的な活用等による業務の効率化を進めている。                                           | ・各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。                          |                                                                                                         |                                                                                |
| 学習指導に主として関するもの                                                                      |                             |                                                    |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
| 学<br>習<br>指<br>導<br>(授<br>業<br>力)                                                   | 各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施 | ・年間指導計画<br>・単元構想<br>・学習指導案                         | ・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、担当教科・領域の年間指導計画を作成するとともに、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた単元構想や教材づくりに取り組んでいる。 | ・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、学年や教科の系統性を踏まえた年間指導計画の工夫・改善を行うとともに、児童生徒の実態や学校・地域の特色を生かした単元構想や教材開発に取り組む、専門性の向上を図っている。 | ・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、教科横断的な視点を携って校内の教育課程づくりに携わるとともに、現状分析をもとに学校や地域の特色を生かした単元構想や教材開発を行い、校内研究会等で改善案を提案している。 |                                                                                |
|                                                                                     | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善     | ・学習集団<br>・指導評価<br>・指導法工夫<br>・授業改善<br>・主体的、対話的で深い学び | ・学習指導法に関する基礎理論・知識を習得している。                                                           | ・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践している。                                                            | ・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践するとともに、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っている。                              | ・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践するとともに、教科横断的な視点を携って校内における授業改革の推進を行っている。 |
| 生徒指導に主として関するもの                                                                      |                             |                                                    |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
| 児<br>童<br>生<br>徒<br>理<br>解<br>・<br>指<br>導                                           | 児童生徒の理解と学級経営                | ・児童生徒との関わり<br>・集団づくり                               | ・学習集団形成に関する基礎理論・知識を習得している。                                                          | ・学級経営の具体的な方策を立案し、実行している。                                                                                | ・学級経営において、児童生徒の個別理解を図るとともに、学級集団の状況を把握している。                                                              |                                                                                |
|                                                                                     | 教育相談、生徒指導及びいじめ・不登校対策        | ・個への対応<br>・コミュニケーション能力                             | ・生徒指導、教育相談に関する基礎理論・知識を習得している。                                                       | ・教育相談や生徒指導を適切に行う上で必要な理論や技法について理解するとともに、児童生徒の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導・支援を行っている。                      | ・学年全体の児童生徒一人一人の特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導・支援を行っている。                                               |                                                                                |
|                                                                                     | キャリア教育(生き方・進路指導)            | ・生き方指導                                             | ・キャリア教育(生き方・進路指導)の重要性を認識している。                                                       | ・キャリア教育(生き方・進路指導)に必要な知識を活用し、児童生徒に将来の夢や希望を持たせる指導を行うとともに、地域や故郷への愛着を育む指導を行っている。                            | ・児童生徒の夢や希望及び実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立って、個に応じた適切な指導を行っている。                                         |                                                                                |
| 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応に主として関するもの ※「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとして位置づけ                       |                             |                                                    |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
| 学<br>習<br>指<br>導                                                                    | 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応      | ・特別な支援教育の視点                                        | ・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、支援に必要な基礎的な知識を習得している。                                    | ・児童生徒の実態把握に基づいた「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた学習上・生活上の支援の工夫を行っている。                             | ・保護者や関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用や、組織的な校内支援体制を構築した上で学習上・生活上の支援の工夫を行っている。                      |                                                                                |
|                                                                                     | ICTや情報・教育データの利活用            | ・ICTの授業・校務等への活用<br>・情報・教育データの活用                    | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に積極的に活用している。                                                | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。                                                                    | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。                                                                    |                                                                                |
| ICTや情報・教育データの利活用に主として関するもの ※「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段として位置づけ |                             |                                                    |                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                |
| 学<br>習<br>指<br>導                                                                    | ICTや情報・教育データの利活用            | ・ICTの授業・校務等への活用<br>・情報・教育データの活用                    | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に積極的に活用している。                                                | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。                                                                    | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。                                                                    |                                                                                |
|                                                                                     | ICTや情報・教育データの利活用            | ・ICTの授業・校務等への活用<br>・情報・教育データの活用                    | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に積極的に活用している。                                                | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。                                                                    | ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。                                                                    |                                                                                |

※ 必要に応じて、「児童生徒」は「幼児児童生徒」と読み替える。